

# 大阪・関西万博の概要について

2020年7月30日

経済産業省  
商務・サービスグループ  
博覧会推進室

# 大阪・関西万博について

## 1. テーマ・サブテーマ・コンセプト

テーマ : **いのち輝く未来社会のデザイン**  
“Designing Future Society for Our Lives”  
サブテーマ : **Saving Lives** (いのちを救う)  
**Empowering Lives** (いのちに力を与える)  
**Connecting Lives** (いのちをつなぐ)  
コンセプト : **People’s Living Lab** (未来社会の実験場)

## 2. 基本事項

- ①開催場所  
ゆめしま  
**夢洲 (大阪市臨海部)**
- ②開催期間  
**2025年4月13日～10月13日**  
(184日間)
- ③来場者数(想定)  
**約2,800万人**
- ④会場建設費(想定)  
**約1,250億円**
- ⑤経済波及効果 (試算値)  
**2.0兆円 (建設費約0.4兆円 運営費約0.5兆円 消費支出約1.1兆円)**



## 名称

◆日本語 (正式) : **2025年日本国際博覧会**  
同 (略称) : **大阪・関西万博**

◆英語 : **EXPO2025, OSAKA, KANSAI, JAPAN**

## 主なスケジュール

- 【2018年】
  - 11月23日 : 誘致決定
  - 12月21日 : 経産大臣に国際博覧会担当大臣を担務として任命、関係閣僚会議の設置
- 【2019年】
  - 1月30日 : 博覧会協会の設立
  - 4月26日 : 万博特措法の公布
  - 5月23日 : 万博特措法 (一部) 施行
- 【2020年以降】
  - 秋頃(想定) : 万博特措法 (全部) 施行  
( (法律上の)国際博覧会担当大臣の任命、内閣に推進本部設置)
  - 年内遅く(想定) : BIE総会 (開催計画承認 (目標) → 参加招請の開始)
  - 2021年10月～2022年3月 : ドバイ万博

# 大阪・関西における2025年国際博覧会の開催に向けて

- 東京オリパラ後の国家的なプロジェクトであり、開催に向けて、政府、地元自治体及び経済界がオールジャパンの体制で、大阪・関西万博の成功に万全を期す。

## 1. SDGsの達成に向けた万博

- 誘致に際して、Society 5.0を鍵としたSDGs（持続可能な開発目標）達成（目標年2030年）への貢献という訴えが国際的に高く評価された。
- そのため、Society 5.0に向けた成長戦略を一層加速化させるとともに、途上国を含めた多くの参加国と共に創る万博とすること（Co-creation）が重要。

## 2. 未来社会の実験場として

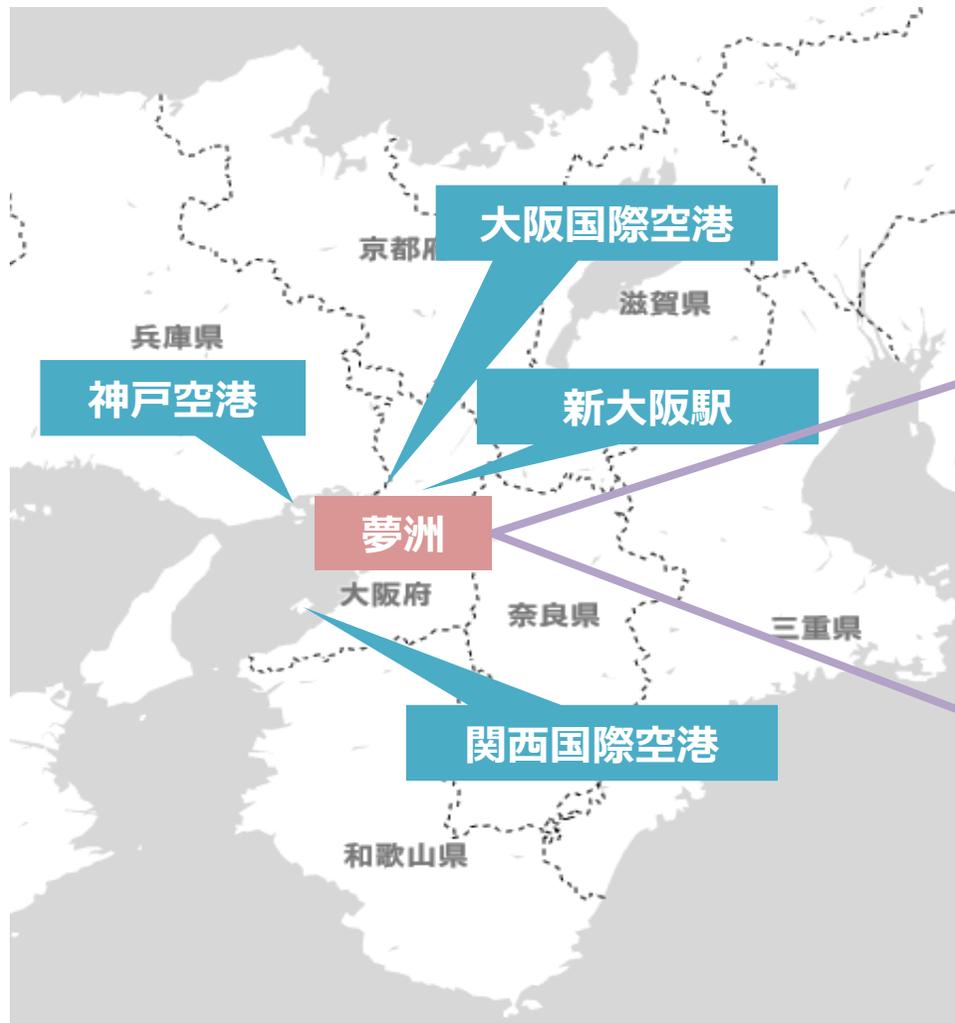
- 万博を、新たなアイデアが続々と生み出され、社会実装に向けて試行される「未来社会の実験場」とする。
- そのため、実験的なプロジェクトを推進する仕組みを設けるとともに、国内外の新たな人材を登用するなど、イノベーションの創出に向けた工夫をこらすことが重要。

## 3. 地域経済活性化の起爆剤に

- 万博は、日本の魅力を世界に発信する絶好の機会。
- 開催地である大阪・関西のみならず、日本各地を訪れる観光客を増大させ、地域経済が活性化する「起爆剤」とする。

# 建設予定地の概要

大阪・関西万博の会場である夢洲は、大阪市内の臨海部に位置する人工島であり、会場地は現在埋立てを進めている。



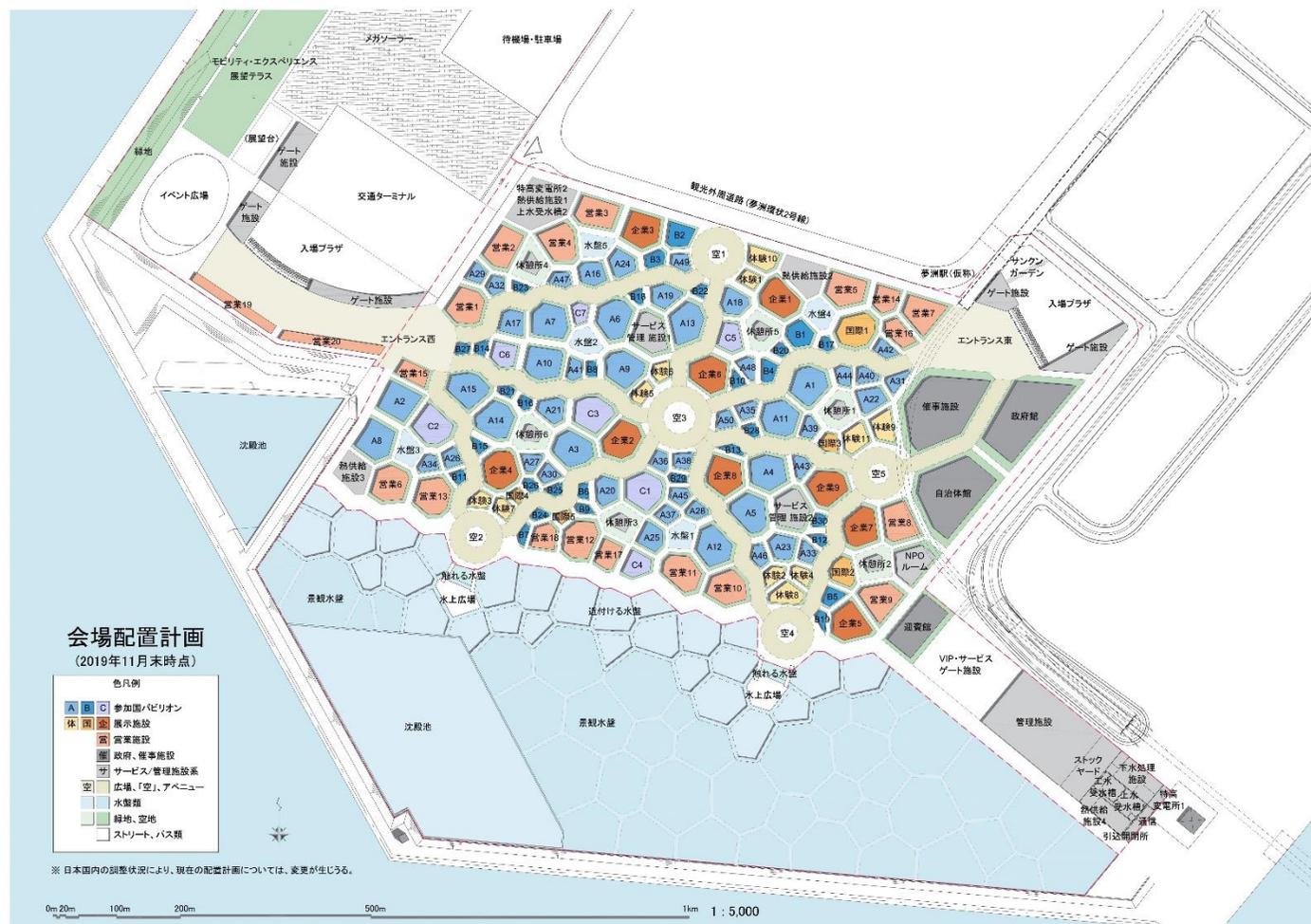
# 鳥瞰図

- 会場は、大阪のウォーターフロントに位置する人工島・夢洲（ゆめしま）。
- 会場面積は、155ヘクタール。（※会場中心部にパビリオン等、南側水面に水上施設等、西側緑地にアウトドア施設等をそれぞれ整備。）



# 非中心、分散型のパビリオン配置

- ボロノイパターン（※）を用いた、あえて中心をつくらない分散型の会場デザイン。個と個の関係、多様性の中から生まれる調和と共創によって形成される未来社会を表現。
- 2つのエントランスと5つの大広場をつなぐようにメイン通りを設置。



（※）ボロノイパターン:自然界に存在する基本的で反復的な幾何学パターン。有機的なつながりと成長を象徴。